

長久保 赴殿
會長工學博士子爵 井上匡四郎
社団法人日本鑑業會
昭和八年四月十一日
敬具

内郷村報の
六大使命
一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村共済事業の徹底を期す。

内郷村報

ルニ天
ベ從法
シ順人
ニ則

全國方面委員
大會參列記 (承前)

三、大會第二日

即ち十月十日、朝食前に一つ散歩をせしめ、渡邊小山上野の三氏を、大阪城見物に出かける。記者は二度目であるが、近頃横造した天守閣は始めてある。近くに名古屋城といふ立派な見本があつたものを、其安んを遺憾に思ふ八時宿に歸る。

大會は昨日の連続で、つまらなからうから、視察をしやうといふ事に衆議一決。照沼主事をはしめ、全員が今宮幼稚園、四天王寺施療病院、四恩學園、鎌ヶ崎細民窟、船場、鞍馬幼稚園、北區市民館等の視察に向つた。但し記者等は、請願書取總めの仕事があるので、一行代表として大會に列席した。九時から一時半迄二十數人が入りかはり立ち

かほり、例の十分間だ。語る人の御苦勞に對しては、十分敬意を表するもの、拜聴する方もなかつた。大儀であつた。而して我々には、後二時には我等一行も視察を切りあげて歸つて來た。大會の豫定日程も終了した。閉會式があげられた。林副會長の閉會の辭、東京の鈴木委員の代表謝辭があり、大久保副會長の發聲で、聖壽萬歳を三唱して散會し、二時半から府市當局の幹旋案内で、參會者は十數班に別れ、市内の社會事業を視察する事になり、我等は福井山梨の人々と共に生野方面委員事務所及財團法人弘濟會を視察した。

(黒井海軍大將の紹介状 記事参照)
拜啓秋冷相催候處倍々御安祥奉拜賀陳は天祖祭制定請願の事に關し請願手續上閣下に御紹介を願度大内民氏を御紹介申上候御引見被下度奉願上候同氏は小生年來の知恩者に有之敬神崇祖の念に厚く社會事業に對し献身的努力をなすつ、ある人に有之候
十月十六日 黒井悌次郎 拜具
三室戸子爵閣下侍史

四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
五、本村に本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

弘濟會は大賑唯一の綜合的大社會事業で、明治四十二年の創立に於り、今日迄の取扱人員約二十萬人、延人員八百萬人に上るの事、病院、養老所、小學校、育兒院、療養場、救護救療所等を、市内各所に施設經營されて居る。以上視察の概況は、我小山委員が名文を以て、社會事業月報に報告されてあるから、こゝには之を略する事とした。記者は養老所を見ては、年波のよるべななみつ難波江に育兒所を見ては、

十四、大會第三日

十月十一日、早朝當市の尋知田嶋浦德靜師の訪問をうく。師は多年海外布教に従事せられた眞宗の徳僧、堅き握手をかはし、十余年の久瀕を叙し、厚意を感謝した。

今日午前大阪朝日同毎日新聞社の招待で、全員二班に分れて之に應じた。上野委員と記者とは、先づ毎日講話の末尾を聞き、新聞印刷の光景を觀覽して退出し、歸途朝日に立寄り、細民の日常生活及海上生活等種々参考となる映寫を見た。兩社から全員に對して、辨當と印刷物の寄贈があつた。午後、一行は途中の歌舞伎座招待で、一行は途中の歌舞伎座招待

此世にははやくも人のなごし手を口ずさみ、一擲同情の涙を流した。視察を終へて宿に歸つたのは夕暮であつた。先づ何處かで最後の別杯をあげてやうといふ事になり、全員連れ立って千日前道頓堀を巡し、丸萬食堂で晩餐をこころ一切が大原翁からの御馳走となり、一同感謝感懐する。それより代表的映寫館見物で、女人哀樂、放浪の美君を見る。巧みに現代語を織り込む、舊劇の説明には一寸感心した。十時半宿歸就眠。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を發するものなり。

利用して、高島屋で紀念撮影をして入場した。府知事及市長の歡迎慰勞の辭あり之に對して名古屋の古關委員一同を代表して答辭を述べた。

十五、大會批判

由來大會などいふものは一種のお祭騒ぎと思ふ。主催者側ですつかり原案を作り、プログラムを定めて置いて、成るべく問題や文句なしに賛同させ、それを何々大會決議で御座る、對外的運動に効果あらしむるに過ぎないものである。果敢の費用の如き、自費公費官費何れにしても、假りに一人五十圓を費やしたとすれば、一千五百人を以て七萬五千圓である。實際はそれ以上である事勿論である。其こそ此非常時に勿論ない話である。而して其得る感幾千である。いづれも非難的開會の辭、式辭、告辭、祝辭、わかりきつた講演、研究事項に至つては、人を愚にしたものであつた。建議に屬する事項の如きも、之の議を纏めるに世にいくらも方法があつたと思ふ。それに就つて通信大會といふ様なしづめ方面時報をして其役目な

狂言(假名手本忠臣蔵四幕七場、新築一周年紀念興行東西合同劇といふふれ込みで、幸四郎守十郎右衛門治長太夫高助助助車等が其中堅が立体的に思つた。それから舞臺が立体的に上下した。場面からへる装置にも感心した。お土産として市内の有名各商店から土産品らしい化粧品文具等をつめた大袋を贈られた。

本紙發行は一月一回
發行所 内郷村報社
編輯所 大内民氏
印刷所 株式會社 平活版

せるのだ。問題があつたら之を全國の方面委員に通告し、府縣を単位として其意見をまき、若し必要があらば、一府縣一名乃至二名を招集して、所謂大會決議なるものを指導するのだ。同時に新聞屋の廣告道具につかはれたら、お芝居見物の招待等は、絶対に断りしる事である。さうした時間や金がある使ふべきである。若し今後かういふ事を繰り返すならば、記者などは絶対に返へすならば、記者などは社會事業に關する圖書を買ふか、視察に出かけるか、助成金を寄附するかの爲に、こゝに主催者に對つて一言注意して置く。

十六、歸途

歌舞伎座から宿に歸つた一行は、拂をすまじ旅装を脱ぎ、記者は七時大坂を立ち九時京都に着き、驛前の本公館に投宿した。正月の参宮圖を宿交際の爲であつた。入浴して直ちに就床。翌十月十二日朝迄は都に會連知の地、視察はのきに歸朝中の奥村牧師夫妻及今津かかはした。互に奇遇を喜び握手を暗れ波る沖に見ゆるは三國嶺かさは津邊の風光

は其情景であつた。同君宅に引きかへして、夫人令嬢の手になる山の御馳走をいたさつた。過去の語り將來を談じ、種々の御土産を預贈して午後十時送られて再び大府より乗車、海老大黒式寢室で十三日未明上野驛に着き、禁酒ホテルに入る。(二面へつづく)

七、滞京九日間

大倉参列の使命は既に終つたのであるが、記者には照沼主事の依頼により基金募集の準備と、天祖祭請願、副業調査、職業紹介所視察等々の任務が發せられてゐた。茲に尙九日間の滞京を餘儀なくされたのである。餘白もない事であるから、其大要をかいつまんで、報告しておかうと思ふ。

基金募集

縣の社會事業協會で、まごまつた基本金をつくる爲に、福島縣出身成功者から寄附を仰がうといふ方針なので、先づ東京から始めるとして、一般形勢を知るに爲に、主事と共に縣出身の内外通信社長關安之助、報知新聞副社長寺田四郎の兩氏を訪れて、其諒解協賛を得、又折よく十四日に新宿賓亭で開催せられた、全市聯合縣人會組織準備會にも出席して、各方面の代表者と親しく膝を交へ、希望を陳述して其賛同を得た。

天祖祭請願

之には貴族院議員の紹介も要するので、其人を得べく、年來知過を忝らして居る黒井海軍大將を訪問して御願した將軍榮衛として引見して下さり、別項掲載の如き三室戸子爵宛の紹介狀を給はり、尙三時間にわたり大小問題に就いて、御高見を聞かして下さつた。而して之が制定に對する意見を伺つたり、賛助をいたされたり、署名者の勸誘を願つたりする爲に、訪問したり來訪をうけたりした人々は、實に左の諸氏であつた。こゝに芳名を録して感謝の意を表する。

矢野 恒太郎 大内 民惠 著
服部 宇之吉
教育制度改革概論
(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

奉安殿竣工遷座式

多年の懸案であつた、第三小學校の 御眞影奉安殿も、日野貞利 杉山今朝吉 四家又二 瀧葉安久 鈴木三郎 渡邊良藏 等により、十一月二十九日午後六時より、淺野頌徳館、警城第一劇場兩所に於て、簡易保險郵便年金獎勵講演會を開

文學博士河野省三 北井秀之輔
足立良彌 遠藤三郎 渡邊要吉
川善三郎 蘇武清人 醫學博士
野佐源太 大倉かれ子 青山新吾
津島源太郎 長澤倉吉 村島文亮
伊藤榮次 服部修三 鶴沼孝
國次 原田三之丞 星野泰明
澤田善 實登吉 江島博 安部
八十八 醫學博士南大曹 吉野作
齋藤 矢野政次郎 上田忠造 警務
炭礦事務前川益以及社員一同 警
齋直江 早野隆太郎 順序不同 安

職業紹介所。東京市内の労働者の實生活、職業紹介の實際等を見る爲に、例の業服を一着に及んで、失業レムペンを裝ひ、南北千住の公設紹介所、上野淺草方面の私設紹介所を遍歴して其實情を取調へた。大に参考にもなり面白事もあつたが、餘白がないから後日の機會にゆづり、下谷清水町の大久保左工門足立翁訪問記、院展、科學博覽記及び警視廳のぞ記等も、同様の之を割愛する。

十月四日家を出て同二十一日歸宅、十八日の日數、百三十圓の經費(内三十圓自辨)を以てして、以上の仕事をした次第である。精力の續く限り、體力の許す限り、其最善を致したのだから、尙今後の精勵によつて、報謝の至誠を致し、責任を全うする覺悟である。終

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理に實際を、歴史に實驗を、知ら新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同鼓舞に堪へず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

方面委員活動開始

縣任命の本村方面委員(十一月より共済委員を改稱)は、新に山崎猪狩武藤赤土佐藤田口の六氏の任命を見陣容全く整つたので、十一月二十七日役場に打合せ會を開催し、受持區域の件、受持決定に伴ふ事務引繼の件、事務打合例會開催の件、受持區域内カード者調査の件、報告書提出の件、方面委員と内郷共済會との關係、年未救恤に關する件、副業調査の件、巨策策確立の爲め副業獎勵及授産場設立の件、福島郡山地方視察の件、全員福島縣社會事業協會入會の件等に就きて熱心に協議し、此際村狀に鑑み、窮困者に向つて金品の給與により一時的救済をするよりは、副業を興へて生活の安定を得させる方針をこゝろ事に衆議一決し、全員協力して之が調査を遂げ、其實現を期する爲め、草野村議研究の竹細工大内常務の調査したる草履表、藁細工等を撰定し、尙不日出縣農務課其他に就きて徹底的研究を行ふ事とし之に要する資金及年未救恤資金の寄附募集も開始する手筈を決定した。

- 一區 川平 高倉
- 二區 長槻内 柳間 廣畑
- 大門 入山 高原 重吉
- 三區 濱井場 大神田
- 四區 峯根 竹之内 武藤 義造
- 五區 平太郎 鬼澤 中澤
- 六區 瀧 蛭子 町田 志賀 留吉
- 七區 宮澤 代 山崎 辰亥
- 八區 金坂 御殿 櫻井 猪狩 喜平治
- 九區 内町 宮本 鐵太郎
- 十區 綴上 佐藤 久太郎
- 十一區 立野 三本杉
- 十二區 大平 臺 仲平 松村 智清
- 箴ヶ作 八反田 高橋
- 十三區 綴下 御臺鏡 田口 淳三 御厩 小島 齋藤 清太郎

火防デー

十一月十五日全村の公私消防組は總出動で、檢閲訓練戸別訪問火防法宣傳等を行ひ、殊に警炭金坂病院では、會田院長警務役員事務係員、佐藤副組頭始め幹部の率ゆる金坂私設火防組と協力して火災を模擬して、患者の搬出、消火練習等を行つた。又當日警炭では全山に火の用心のピラを配布したが、御利益授くる赤井嶽も、焚火の油断で灰なるの標語は、近來の傑作で山中の評判となり。大にき、目があつた。

宮下氏昇段

本村の生んだ棋界の天才日本棋院棋士二段宮下秀洋氏(二二)は、今秋の手合に優秀の成績を現はし、三段に昇段する事となつた、氏は宮下秀賢師の二男。本紙贊助金寄贈芳名

- 金五圓 亡母追悼供養の爲
- 金參圓 齋藤 山崎 甚太郎
- 金壹圓 內郷 茅根市太郎
- 金壹圓 內郷 五十嵐一也
- 金壹圓 內郷 隅田 卓夫
- 金五拾錢 東京 山田 一郎
- 金五拾錢 東京 畑山 耕作
- 金五拾錢 新潟 山中 虎雄

日本評論社

發行所 日本評論社
東京九ノ内昭和ビル
取次所 内郷村報社
廣田六三氏 町田坑現場係たりし氏は十一月二十九日坑内巡視中落盤の爲即死した。前途

服部 恒太 大内民惠 著
教育制度改革概論
(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

奉安殿竣工遷座式

多年の懸案であつた、第三小學校の御眞影奉安殿も愈々竣工したので、十二月一日校庭なる新殿前に於て村長以下多数の來賓、全校教職員及全児童參列の下に厳肅なる遷座式を舉行了。總經費約九百圓、純日本式社殿作りで、めぐらせる柵内には、職員並に有志家の寄贈にかゝる樹木を植え込み、一段の森嚴を加へ、思はず襟を正さしむる感あらしめた。左は記者の献歌。
新らしき宮をあふきて大君の
朝榮いのるけふにもあるかな

報國號寄附

小笠原海軍中將外四中將の發起にかゝる海軍々用飛行機報國號献納會より依頼を受けたる、本村在郷軍人海軍部では、部長山崎辰亥氏を始め根本清粒來宗吉遠藤清小山田武の諸氏發起者となり、全村より寄附を募集したるに、左の如き好成绩を挙げ、全部送金したるに對して、最近大角海軍大臣より、部長以下寄附者全部に懇篤なる感謝状を寄せられた。

- 金拾圓 山崎辰亥
金八圓 警廣從業員有志
金五圓 根本林平 沼田濱之助
- 本年の入營兵
- | | | |
|-----|----|-------|
| 入營日 | 部隊 | 氏名 |
| 八年一 | 一 | 橋本光義 |
| 八年二 | 二 | 成瀬竹雄 |
| 八年三 | 三 | 鈴木勇 |
| 八年四 | 四 | 菅島平八郎 |
| 八年五 | 五 | 鳴原先男 |
| 八年六 | 六 | 齋藤正雄 |
| 八年七 | 七 | 高山良男 |
| 八年八 | 八 | 石上榮 |
| 八年九 | 九 | 渡邊淺雄 |
| 八年十 | 十 | 内藤敏 |

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。まればと未だ一人の抗議も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西直博博士
書を寄せて曰く、多年御體験下實地ノ御試練ニ基ク眞學愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思議敬ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社
東京九ノ内昭和ビル
取次所 内郷村報社

廣田六三氏 町田坑現境は十一月二十九日坑内巡視中落盤の爲即死した。前途有望の人、哀悼に堪へず。水泳部報の筆者たる事は、一般讀者の知る處であつた。

勞務者講習會

文部省日本勞務者教育協會主催の講習會は、十一月六日より十日迄六日間、淺野頌徳館に於て開催せられた。題目は衛生、經濟、電氣、世界の勞務者事情及非常時日本勞務者の覺悟、それに講談活動映畫等を配し、多数の聽講者あり、講師は原重熊、長久保勉、田口政治三浦樂堂、小林一郎、氏家眞一郎の諸氏であつた。

火の見寄附
内郷消防組頭佐藤三平氏は工費五百圓を投じて、小島地内に建設寄附し、來る五日落成式舉行の由。

伊勢參宮團 宮澤親和會 支那有志主 催參宮團は、來卅一日出發一月三日歸山の豫定。經費二十五圓。希望者歡迎の由

敬老唱歌會

十一月二十三日新嘗祭を卜して我四小學校聯合で淺野頌徳館に敬老唱歌會が開催せられ、記者も案内に應じて之に列席した。會にはふさはしい小春日和、二人の老婦が橋近くで迷つて居たので手をひいて會場に来る。待構へて居た女先生達が抱へる様にうけとつて會場に送り込む。見るからに美しき情景である。

簡易保險 獎勵會
本村三郵便局主催、内郷村警城炭礦後援で、十一月二

感謝の意を表する。
子爵三室戸敏光 文部省普通學務局長 武部一 内務省神戶局長 田澤 青木仁藏 帝國教育會事務理事 大島正徳 岡田實 會根朝起

上申する事となつた。而して來春二月頃内郷共濟會役員會を開き、組織上に關し協議する事に決定した。

常磐炭田に於ける坑内温泉の研究

磐城炭師 長久保 赴



長久保 赴 師技保久長

磐城下暗して我長久保技師が今春日本の鑛業界に盛名を馳せたる事を知らずに居り近頃始めて之を聞きしに其片鱗を以て記者に紹介したいと思つて特に乞ふて此原稿をいたした次第である之れ當に氏の榮譽たるのみならず磐城の誇りである 記者

坑内 温泉が湧出すること世界中でも余り其類例がなく、眞に珍らしいものであります。然し此位炭礦の經營者及従業員に於て、迷惑で厄介なものばかりで、之迄の例を見ても、大坑内坑内が温泉に占領せられて、會社は大損害を蒙り、多数の従業員が失職した事が再三ある事は、皆様のよく御存知の事でありませう。

大 正二年五月一日三星鑛坑の埋没は有名なもので、昭和五年九月三井鑛業本鑛業所の埋没で、共に會社に再び立つ事が出来

拜啓 時下益々御清勝奉賀候。陳者豫て御提出相成候下懸賞論文一温泉ノ坑内湧出ト其堰堤ニ依リ抑制一は審査の結果入選相成候に就ては来る四月二十二日(土曜日)午後一時半上野精養軒に於て開催する本會第四十八次通常總會に於て渡邊博士紀念懸賞金壹百圓也授與相成候間御刻御來會被下候様致度此段御通知申上候

昭和八年四月十一日 社団法人日本鑛業會 會長工學博士于爵 井上匡四郎

長久保 赴殿

内郷村報の六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協力を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。

天法人則 順ナ

業員生活の安否に關する大問題なのであります。筆者は此重大な使命を果すべく數年來研究をして居る譯であります。それで微力ではありませんが、此研究が多少でも温泉の適切な處理をする上を參考となり、會社の

繁榮に貢獻し、従業員諸君の生活の安定に寄與する事が出来たらば、此上の満足はありませぬ。筆者は此春、四月二十二日午後一時上野公園精養軒に於て開催

天祖祭制定發願を八幡神社に奉告且念願成就の祈誓を捧げて 杉田 高橋直記

まごころをなさるる様を聞きしめしかねば給へ八幡の大御君が明治神宮に参拜祈願せらるるを

此度の君がちかひしかたければきこしめすらん代々木の大御

愈々御壯榮欣望不斜候最近の村報誠に愉快に拜讀仕候 多謝

好問 渡邊 青州

天賜福福 人爵亦何有

壽星揚瑞氣 肯受利名職

借老賢妻仕 承歡有孝兒

病院雜吟 石田 修二

女もあらぬ方の冬戸かな 勿体なき夢結びけり干瀟瀟 濡れ下駄にふき廻る寒さ哉 非常時の女にゆかきし給かな

の、日本鑛業會第四十八次通常總會席上に於て、第七回渡邊博士紀念懸賞金壹百圓也を、會長于爵工學博士井上匡四郎氏より授與せられたり。

論 文は研究の一部である「温泉の坑内湧出特性と其堰堤に依る抑制」でしたが、同時に渡邊賞金に筆著の外に、東京帝大の三川理學士で、題は「千葉縣大宮町附近の天然瓦斯及此に伴ふ地下水の化學的研究」渡邊賞牌は二人

村内の善事美行を表彰し、且之を奨励す。

本村に本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。

尙餘力を以て、國民善導に當る。

「夕張二十四尺層の採炭法」藤井楊七郎氏「住友鴻の舞金山の採炭及製練法に就て」小池資三郎氏で二人共所長が鑛山長といふ重要な地位の方であります。學界の重鎮、事業界の權威、諸名士列座の中で、賞金を受けました事は、筆者の

光 榮とする處であります。之は筆者一人の努力の成果ではなく、實に陰に陽に御援助を賜はつた會社の皆様の御陰であります。此處に厚く御禮を申し上げ度と思ひます。筆者の温泉

研 究の本年度分は「壓力ある地下水(温泉)に依つて埋没せる坑内の排水」で埋没後數年を経過せる坑内を排水する場合、排水量の決定、一定量の排水をなせる場合の排水期間の理論式、埋没坑に急に連絡したる場合の理論式より之等を實際に應用せる鑛東斜坑排水計畫等は此の九月中に大体纏りましたので、何れ又學界に發表したいと思つて居ります。此次の研究は更に

續して「温泉のため多温多濕となれる坑内の空氣の調節」で、此大要は、現在の坑内は非常に蒸暑く、自下の人々の想像も及ばぬ低能率の作業しか出来ぬ上に、疲勞する爲危険率も多い、現在各社の坑内夫一日二工當り出炭を見るに、鑛城一八五、古河一五五、入山一〇五となつて居ります。これでも不況の爲に坑夫技師の進歩、努力の機械化、集中式大産生産採炭法を施しての結果でありませう。現在の様に石城の需要が急激に増加しても、坑夫が少く折角入れても不練れで急に間に合はない場合には、是非坑内空氣の適當な調節に依つて例へば三七度一〇〇%といふ坑内空氣を、三

度六〇%湿度にする、作業能率が三倍になりますから、現在の三倍の需要に應ずる事が出来、一人當り出炭も

外 國に余り負けない様になる理で、今後の能率増進は實に坑内空氣の調節に待たねばなりません、其他に研究項目は「常磐炭田に於ける湧出温泉の總量と其岩石の温度への影響」「温泉の熱に依る石炭層の二次的變化」「温泉の潜在發見法」坑内湧出回避地湯本温泉の復活」等があります。之等が全部纏れば坑内温泉の自由な調節が出来、相當なものになると思ひますが、何しる事地中の

採炭夫募集

一、各坑を通じて多數募集
二、十八歳以上三十五歳以下、身体検査人物考査の上採用
三、希望者は各坑事務係及七年會に申込むべし
但紹介者に薄謝贈呈の規定あり
昭和八年十二月

磐城炭礦々業所

謎に屬し、種々困難な問題に遭遇して研究が思ふ様に進捗しません。是非皆様の御鞭撻を御願申します。尙筆者は此四月から日本鑛業會の一員として末席を汚す事となりませうが、更に五月からは所長を初め各坑長全部、上原肥田野の兩氏も會員となられ、舊會員の倉田、田寺、前川の三氏を合せて十一名の多數となり、此等の優秀な方々の御研究、例へば温泉湧出通路へのコメント注入法等の

世 界的大事業等もあり、尙續々御發表があらませうから、今後の會社の盛運を祈り謹致します。

本紙發行は内一家の事業に於て、其の社説は字跡に對する選言を兼ねるものなり。

利用して、高島屋で紀念撮影をして入場した。府知事及市對しての歓迎慰勞の辭あり之に對して名古屋の古關委員一同を代表して答辭を述べ

本紙發行部 社団法人日本鑛業會
發行所 内郷村報社
印刷所 大内民恵

本紙發行部 社団法人日本鑛業會
發行所 内郷村報社
印刷所 大内民恵